

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570909416	
法人名	有限会社くおん	
事業所名	グループホームくおん(B棟)	
所在地	秋田県鹿角市八幡平字堰の下108番地	
自己評価作成日	平成30年9月25日	評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>春夏秋冬 季節を目で肌で感じ取れる自然豊かな環境にあります。日々ゆったりと一日が過ぎるような雰囲気の中で安心して過ごして頂くよう努めております。</p> <p>・冬が長いので陽が出る日は必ず外で、日光浴、外気浴を行っています。                  (外の景色を見ることで、目で季節感を感じることが出来ます。また、農業を経験した方が多く田んぼ作業の話など入居者さん同士はもとより職員との話題にも繋がっております。)</p> <p>・入居者さんの重度化が進んでいる状況で、入居者さんとそのご家族さんの安心に繋がるように訪問診療、訪問看護、訪問歯科、訪問マッサージなどの利用を多くしている。</p> <p>・遠方で開催の研修会へ参加するには人員的、時間的に限りがある為、かつの厚生病院、市、包括支援センター主催の研修会には、時間外手当を出し多くの職員から積極的に参加してもらっています。もちろん職員の資格取得に向けてバックアップをしています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年、月ごとにテーマを設け実践したことで理念を共有することの重要性を認識したうえでスタッフ会議の中で代表からお話され実践に繋げています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	歌、踊りのボランティアさんや保育園、中学生、地元商店の訪問販売、理髪店等の来訪があり交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	散歩や地域の行事に参加し地域へ開放する事で、直接言葉を交わし接することで、理解し対応方法等を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での結果を全職員に報告があり、その意見を取り入れております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらったり包括支援センター主催の研修会へ多くの職員が参加し情報交換の場となっている他、介護支援専門員も直接連絡を取り合い市との連携を密にしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議、ユニット会議の中で、話し合っています。3か月に1度開催の廃止委員会が行われるようになり意識することが多くなった。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	話し合いの中で、意識調査や意見交換を行い認識の共有化を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センター主催の勉強会へ参加し目下勉強中です。今は活用の機会は無いが役立てるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間は掛かってしまうが、入居前に必ず入居される本人、その家族さんから施設を見学してもらい都度、疑問点などを解決し納得してから契約(入居)に繋げています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に意見、要望を聞いています。反映できる事は反映しております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や職員親睦会を開催し意見をだしたり情報を交換したりと交流を図っております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に関する資料の回覧、資格に応じた手当の支給、勤務年数に応じ昇給があります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近場での研修には時間外手当を支給して積極的な参加を促しています。遠方での研修については計画を元に全職員が満遍なく参加出来るように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近場での研修会を通し交流を図り、情報交換することで参考にしたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員を介しこれまでの生活歴、趣味、生活習慣等をご家族さんから聞き、情報を職員間で把握し信頼関係を構築するよう努めています。また、出来る限り寄り添って思いを聞ける時間を作るように心がけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には時間を掛けてご家族さんとしっかりとお話をする機会を設けております。また、入居後カンファレンスで話し合ったことをご家族さんへ伝え可能な限り要望を叶える様に努めております。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意とする事を職員と一緒にしております。特にレク時の談話の時間を大切にし共に笑ったりと楽しい時間を共有するように努めております。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、近況報告を行い意見を頂き、一緒に介護できる関係づくりに努めております。家族さんの面会には笑顔がみられる。外泊、外出、外食をして下さる家族もいます。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者さんの住んでいた近所にドライブに行き。昔から変わらずあるお寺や鳥居、祭りを見学に行っております。面会に来やすい環境だと思っております。入居者さんとゆっくり話ができるような雰囲気作りに心掛けております。		
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	複数名で郷土料理を一緒につくりともに達成感を感じて頂いております。レク時は1つの輪になって体を動かしたりおやつを食べながら談話しております。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為退去となってしまっても病院へ面会に行ったり、亡くなってしまった入居者さんのご家族さんが帰省された際はホームに顔を見せに来訪して下さいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望や思いを聞き、出来る範囲で実践しています。この情報をご家族さんにも伝えご家族さんからの協力もお願いしております。		
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	回想法によりどんな生活をして来たか。情報を得るように努めております。入居者に寄り添って、気持ちを引き出すように頑張っています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りを通し、その日の業務に当たっている職員で話し合っています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議で皆さんの意見を出してもらい毎月の介護計画を作成している。家族の方にもご意見を伺っている。		
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝のミーティングで話し合い、申し送り等して、情報を共有している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催されている「ばっちゃん会」に参加し住み慣れた地域の方々との「馴染みの関係」を断ち切らないように支援している。 歌、踊り、民謡のボランティアさんの来訪があり楽しんでいただいている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医との関係を大切にし、入居後も継続して診て頂いております。時には診察にご家族さんからも立ち会って頂いております。また、主治医の往診、訪問歯科を利用しています。 かかりつけ薬局との連携も大切にしており、薬に関して分からない事を相談したりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診前には必ず職員間で情報を共有しドクターへ相談する事、伝える事を話します。 受診後、全職員は必ず受診記録に目を通しドクターの指示や薬の処方内容を確認しています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護支援専門員を介して病院関係者との情報交換している。また、入院時は病室に行って直接、看護婦さんと相談している。 介護支援専門員が多職種連携会議に積極的に参加し病院関係者と交流している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に、ホームで出来る事、出来ない事を説明し入居時には再度説明しハンコを頂いております。ドクターと相談しながらご家族さんの希望に添える様、出来る範囲で取り組んでいます。		
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議の中で心肺蘇生法の訓練を行いました。その際、資料も配布されました。また、マニュアルと緊急連絡先が誰でも簡単に閲覧できる所に設置されている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の避難訓練を行い避難路の確認や訓練後の反省を行っています。また、推進会議でも話を出しております。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年、プライバシーの保護をスタッフ会議の中で勉強会を行っています。マニュアルもあり自由に閲覧できる所に設置されていますし、敬う気持ちで対応する様に心掛けております。		
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	地域の商店から訪問販売を行ってもらい、食べたい物を自己決定できる環境を整備しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の意向を尊重し、出来る範囲で対応しています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を着てもらおう為、定期的にダンスの整理を一緒に行い衣類整理をしています。 定期的に理美容室から訪問してもらい散髪してもらっています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けを手伝ってもらったり、片付けを手伝ってもらっています。早食い、入れ歯のない方には刻み食を提供し職員と全入居者が一緒に話をしながら食事をしています。		
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用して食事量、水分量を確認している。 また、ムセやすい方には、トロミを付けゆっくり時間を掛け摂って頂くよう介助しています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず行っています。出来ない方には職員が介助して行っています。トラブルが生じた時は、歯医者さんへ連絡し対応してもらっています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用してパターンを把握し時間を見てトイレ誘導声掛けを行い失禁の回数を減らすようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を活用して水分量を把握しています。散歩、体操などを毎日、午前と午後行っています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態を確認し、入浴の声掛けを行っています。入浴へ繋がらない時は、時間をあけてから再度声掛けしたり対応する職員を変えるなどして対応しています。入浴を楽しめるように、談話したりリラックスできるように努めています。		
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就床前に足浴を行い体を温めて休んで頂いております。日中は活動的に過ごして頂き、午後は自由に休んだりメリハリをつける様に努力しています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局をお願いをして、処方された薬を一包化して頂き、それに日付をして間違いが無いように努めています。錠剤で服薬出来ない方について、ドクターへ相談し粉状にして処方して頂き確実に服薬して頂く様にしています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所のお手伝いや洗濯たたみ、干しをして頂いております。車いすの方にも洗濯もののシワ伸ばしや使用する食材の準備を行って頂いております。踊り、歌、民謡のボランティアの来訪、ドライブで気分転換について努めています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベントに出掛けたりしておりますが、スタッフが対応出来ない時は、ご家族さんから協力を得て対応しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問販売が来所した時は、預かり金を本人へ渡し好きな物を購入して頂いております。その際、お釣りと支払金額を本人から計算して頂いております。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある場合は繋いでおります。電話が掛かってきたきた場合も同様です。手紙のやり取りはな いです。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂くため、出来るだけ外に出てもらっています。外に出れなくても中庭に庭木があり多少の季節感を感じて頂いていると思います。		
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には、だいたい入居さんが気に入った場所、席があるようで、その場所で気の合った入居者さん同士が話をしたりしています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、以前から使用していた私物を持ち込んで入居して頂いております。また、家族さんの写真や昔の思い出の写真を居室内に飾っています。		
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなど大きな字で書いたものを入居者の目の高さに貼り付けるなど工夫しています。		